

下関市医療対策協議会（下関医療圏地域医療構想調整会議）

（令和6年度第1回）議事概要

【日 時】令和6年8月2日（金） 19：00～20：00

【場 所】下関市役所 西棟5階 大会議室

【出席者】出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 地域医療構想の進捗状況の検証を行い、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認した。
- 岡病院の病床機能再編支援事業に係る単独病床機能再編計画について説明を行い、合意した。
- 「新下関市立病院に関する基本構想案」に対するパブリックコメントの結果や休日・夜間の二次救急医療提供体制の変更について報告した。

- 1 令和6年度地域医療構想調整会議の進め方について
- 2 令和5年度病床機能報告結果について
- 3 地域医療構想の進捗状況の検証について

県医療政策課から、今年度の地域医療構想調整会議の進め方や令和5年度病床機能報告結果について説明を行った。

また、地域医療構想の進捗状況の検証を行い、医療機関対応方針の取組の実施状況等について確認した。

（主な意見・質問等）

- 新たな地域医療構想の検討・策定等を行うとあるが、これが下関医療圏にどのように関わってくるのか。現在進めている取組を見直すこともあり得るのか。

⇒ 現行の地域医療構想は病床数に着目したものだが、新たな構想については、病床だけでなく、人材の確保や医療・介護連携など、より広い分野が論点となっている。下関で進めている機能再編については、新たな構想でも中核として残るものであるため、引き続き着実に取り組んでいくことになる。

- 病床の削減だけをすれば良いというような、今の議論のあり方は本質的ではない。

人口が減っていく中、現実問題として下関が将来やっていけるのか、という議論が抜けている。このような会議での発言は全て玉虫色であり、行政は現場の状況を理解することが欠けていると強く思う。

⇒ 現場の状況に基づいて取組を進めていくことは非常に根幹的なものである。その一方で、データを捉え、分析し、施策につなげていくということは、これまで十分にできていなかったもので、これからに向けての課題であると考えている。

- 資料に高度急性期・急性期の病床数が記載されているが、現場の状況を正確に表していない可能性があり、新たな構想の策定においては、正確なデータが必要だと思う。

⇒ 病床機能報告のデータは、病棟単位で報告すること等の制度上の特性により、現場の状況と乖離する場合がある。このため、新たな構想においては、より現場に即した数字にできないか、国の検討会でも議論されているところである。

4 病床機能再編支援事業について（岡病院）

令和6年度病床機能再編支援事業の実施を希望した岡病院から、単独病床機能再編計画について説明を行った。

岡病院の計画では、地域の入院医療機関との役割分担を踏まえ、高齢化に伴い増加が見込まれる需要の受け皿となる在宅医療や介護施設の充実を図るため、慢性期病床の介護医療院への転換や病床削減が説明された。

協議の結果、単独病床機能再編計画について合意した。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等はなし

5 「新下関市立病院に関する基本構想案」パブリックコメントの結果について

6 休日・夜間の二次救急医療提供体制の変更について

市地域医療課から、「新下関市立病院に関する基本構想案」に対するパブリックコメントの結果や休日・夜間における二次救急医療提供体制の変更について説明を行った。

(主な意見・質問等)

- 職員の処遇には十分配慮するとされているが、不安を持っている職員がたくさんいる。山口県内でも医療従事者、特に看護師が人員不足であるため、働きたい人を逃さないよう慎重に進めていただきたい。専門部会の議事概要に市民のために働いてくださるというところがあるが、今まで働いてきた方々への敬意を表すとともに、これからも働き続けてもらえるように配慮をしていただきたい。
- 下関の重点支援区域の指定にタイムリミットはあるのか。
 - ⇒ 現行の地域医療構想を実現するための重点支援区域であるため、2025年为目标年次であるが、新たな構想の策定に伴い継続されと考えられる。リミットが示されている訳ではない。
- 新下関市立病院の基本構想が策定され、下関医療センターが合併で無くなるのではないかと、という風評がある。この状態でどこまでいけるのか、本当に合併できるのかという不安がある。タイムリミットが見えない中で、早く進めないといけないと思うが、何とかならないか。
 - ⇒ 重点支援区域の終期に関わらず、再編の取組については、可及的速やかに進めていく必要があると考えている。引き続き協議をお願いしたい。